

## 海岸保全施設の適切な修繕等のあり方検討委員会（第2回） 議事概要

日 時：平成27年1月20日（火）10:00～12:00  
場 所：（一財）日本航空協会 航空会館 7階 701・702会議室  
出 席 者：横田委員長，宇多，岩波，諏訪，浅井，桐，金田，渡辺，加藤，  
岡（代理・遠藤），木島（代理・米山），井上，眞田 各委員

1. 主な議事

- 委員長の進行のもと事務局が資料について説明を行い、意見交換を行った。  
これまでの議論を踏まえ、修繕等のあり方について及び事例集の取りまとめについて次回の委員会までに検討を進めて報告することとなった。

2. 主な意見等**【修繕等のあり方について】（資料3）**

- 海岸保全施設は法律上、堤防、護岸、胸壁の他に離岸堤等の施設も指す。  
委員会のとりまとめは、既往のマニュアルに準拠するものであれば、マニュアル同様に副題（「～堤防・護岸・胸壁の…」）を入れ、対象構造物を明示するべき。
- 文章表現・表示法について、とりまとめの際は注意すること。
- P. 6の事例は、ひび割れによって海水が侵入し、堤体土砂が吸出され、パラペットの裏裏が空洞化していることが多い事例なので、ひび割れだけを補修するのではなく、裏側でどんなことが起こっているかをリンクさせるような記述をすると良い。
- 写真だけでは、変状に至った経緯についてわからないので、工夫すること。
- 健全度Bの基本的な考え方は、変状原因を検討した上で対策を行うという観点で見直してはどうか。例えば、“原因の検討を行う”などと記述する。
- 変状連鎖図は、原因を検討する上での手がかりとして使うのは良いが、これ以外のものもあるので、その点は注意が必要。
- 修繕の考え方は、マニュアルに示す1次点検を実施し、必要に応じて2次点検を行い、評価し、原因に分析を行うことを前提としたものであることを、記載したほうが良い。
- P. 2を最終的なアウトプットとする場合、健全度Bの基本的な考え方に示す括弧の但し書きは、もう少し強調してとりまとめた方がよい。  
予防保全には、小規模なパッチあての対策もあれば、大規模な侵食対策がある。後者であれば、きちんと原因をつぶさないといけない。

- 健全度Cは、対策区分としては「要監視」であるので、基本的な考え方は、健全度Bと同じではない。できれば対策した方が良いが、優先順位としては、健全度Bのほうが上である。ただし、健全度BとCは、一緒に対策をした方が効率的な場合等もあるので注釈は必要。
- 具体例で示している工法はあくまで例であり、変状原因への対策はいろいろな種類や規模の幅があることがわかるようにすると良い。
- P. 1-2について事後保全を勧めているような誤解が生じないようにする必要がある。方向性は、まずは、健全度Aになる前に修繕をしていくという予防保全の考え方があり、一方で、海岸保全施設の現状を鑑みれば、今後は新設する施設が少なく、既存の施設で健全度Aの施設が多いため、現状においてはそのような施設の事後保全を行うということだと思ふ。資料にもこのような考え方を書いた方が、誤解がないのでは。
- 変状連鎖図は、出典のとおり「Step I」～「Step V」と表記しているが、この資料では説明がないので、健全度評価A～Dで整理したほうが良い。
- 対策の優先順位は健全度A、B、Cの順ということには注釈が必要。予算の状況等によって、健全度Bを優先することもあるので、判断が機械的にならないよう注意が必要。

#### 【事例集のまとめ方について】（資料4）

- 古い事例を用いて、これまでの対策が有効か確認する視点で整理できると良い。
- 掲載事例のなかで、平面的な観点から長期的に見た場合、対策の工夫が可能なものがあるため、これらの事例の示し方を工夫すると良い。
- P. 11の造り替えの事例は、造り替えの時に以前より材料の工夫などがあったため長寿命化したということであると思ふので、造り替えると単純に長寿命化するという誤解が生じないように配慮してほしい。
- 資料3の修繕の考え方と事例の整合がとれた整理をすると良い。
- 委員会資料では、波浪が原因の変状に対する修繕についてとりまとめられているが、外観上は異常が見られなくても堤体が沈下して天端高が不足しているといった進行型の変状についてはどのように取り扱うのか。

#### 【保存方法・データベースについて】（資料5、6）

- 点検結果等の等の記録等の様式などは、ベースが共通であれば便利である。
- 変状が進み健全度が不足している施設について、被災があってはじめて変状が明らかになる事例も多いと思ふ。このような事例などの記録も、点検のデータ

ベースとうまくリンクする形でまとめていく方向になると良い。

- データベースに入力する作業が発生するのでは、労力の面から厳しいので、データベースに抽出しやすい点検シートを作るなど、作業労力を軽減できるようにできればよい。

**【まとめ】**

- ・とりまとめの際の文章は丁寧に記述してわかり易くすること。
- ・提示する事例が本当に事例の良い点、留意点などが利用者に伝わるような工夫をすること。
- ・マニュアルを使えば全て出来るというわけではないため、考えなければならぬポイントを伝わるようにとりまとめること。

以 上